

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年7月3日

【評価実施概要】

事業所番号	1870200159
法人名	株式会社 かくだ
事業所名	敦賀ケアセンターかくだ「はるか」
所在地	〒914-0812 福井県敦賀市昭和町2丁目20番地16 (電話) 0770-25-4141

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋二丁目北1番21号八千代ビル東館9階		
訪問調査日	平成20年6月10日	評価確定日	平成20年7月17日

【情報提供票より】(平成20年5月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15 年 4 月 4 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8 人, 非常勤 1 人, 常勤換算	5.5 人

(2) 建物概要

建物構造	鉄骨造陸屋根造り	
	2階建ての	2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	8,000 円	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり	1,200 円		

(4) 利用者の概要(5月1日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名	
要介護1	0 名	要介護2	2 名			
要介護3	3 名	要介護4	1 名			
要介護5	2 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	87.6 歳	最低	77 歳	最高	95 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	川上医院・ワカバ歯科医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域福祉の拠点となり、通所・居宅・訪問介護、訪問看護、介護タクシー事業所と併設された、法人2カ所めのグループホームです。大きな窓が特徴的でホーム内は大変明るく、リビング、居室も広々としています。法人理念を基にホーム独自の年間目標、職員の個人目標も設定され、毎月ケアを振り返り、自己評価を実施し、代表、管理者等からのフィードバックされており法人全体で理念に添ったケアに取り組まれています。研修は年間計画が立てられ、積極的に参加しており、毎月のホームでの勉強会では事前学習を行ってから実施されています。利用者の方々が増え、重度化される中、くもん学習法を取り入れ機能維持を図り、また、食事が楽しみなものになるよう力を入れています。個別の外出を取り入れたり、職員は思考錯誤しながら、笑顔を大切に、利用者本位のケアに向けて努力されています。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価の課題については運営推進会議の内容についてや毎月家族への暮らしぶりの報告の実施等出来る事から職員と話し合い取り組んでいます。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価については、評価票を全職員に配付して意見を求め、管理者によりまとめられ、改善計画も立てられています。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	利用者、家族、自治会長、民生委員、福祉委員、地域包括等が参加する運営推進会議が2ヶ月に1回開催されており、ホームで実施している事でありのままで見えています。会議では認知症について説明を行い理解を深めたり、情報を得たり、意見交換もなされ活発な会議となっています。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族がホームに来られた際に意見や要望を聞くようにしており、年に2回実施されている家族会には多くの家族が参加して、家族同士が話し合える場を設けており、また運営推進会議でも意見交換をしています。得られた意見や要望については運営に取り組むようにしています。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	立地的に地域との交流が難しい事もあるが、自治会、老人会に入会しており、外出時に近隣の方と出会った際に挨拶をしたり、運営推進会議の際や2ヶ月に1回地域のふれあいサロンに参加し交流を図っています。幼稚園児の訪問もある。また、地域の方が参加される市主催の脳の健康教室が開催される予定です。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域社会との連携についても謳われた法人の運営理念が掲げられている。理念に添って職員で話し合い、「利用者、職員が笑顔で暮らす」というグループホーム独自の年間目標が設定されている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎月の法人全体やグループホームミーティングで理念を唱和し共有を図っている。ホームに入ったところとりビングに2カ所掲示もしている。法人理念、ホーム目標に添って職員一人ひとりの個人目標が設定されており、毎月ケアについて振り返り、自己評価を行い、代表、管理者よりフィードバックもされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	立地的に地域との交流が難しい事もあるが、自治会、老人会に入会しており、外出時に近隣の方と出会った際に挨拶をしたり、運営推進会議の際や2ヶ月に1回地域のふれあいサロンに参加し交流を図っている。幼稚園児の訪問もある。また、地域の方が参加される市主催の脳の健康教室が開催される予定である。	○	日常的に地域との関わりが出来るように、「運営推進会議」を積極的に活用し、グループホームを知ってもらう取り組みや、イベントを通してホームに来てもらえる働きかけが今後期待される。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価の課題については運営推進会議の内容についてや毎月家族への暮らしぶりの報告の実施等出来る事から職員と話し合い取り組んでいる。今回の自己評価については、評価票を全職員に配付して意見を求め、管理者によりまとめられている。改善計画も立てられている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者、家族、自治会長、民生委員、福祉委員、地域包括等が参加する運営推進会議が2ヶ月に1回開催されており、ホームで実施している事でありのままを見て頂いている。会議では認知症について説明を行い理解を深めたり、情報を得たり、意見交換もなされ活発な会議となっている。		

敦賀ケアセンターかくた グループホーム「はるか」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市主催の脳の健康教室を開催予定であり、市担当者には事務長を通して連携を図っている。毎月介護相談員の受け入れも行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	家族はよくホームに来られ、その際に日頃の暮らしぶりや健康状態について話をしており、毎月担当職員から郵送にて状況報告をしている。写真は郵送したり、アルバムを作成し、家族会で渡している。金銭管理については立替で毎月報告をし、領収書を送付している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族がホームに来られた際に意見や要望を聞くようにしており、年に2回実施されている家族会には多くの家族が参加して、家族同士が話し合える場を設けており、また運営推進会議でも意見交換をしている。得られた意見や要望については運営に取り入れるようにしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ない異動はあるが、日頃より1階のデイサービス、もう1ヶ所のグループホーム職員との関わりもあり、法人全体として馴染みの関係を形成されている。また、新しい職員が入った場合は利用者に関わる時間を多くし、コミュニケーションを図っている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ホームの研修計画があり、毎月ホームミーティング後に講師を招き、学習会を実施している。学習会の参加については、テーマに対して、事前学習を提出してから参加することになっており、学習効果が十分得られるように工夫されている。認知症ケア専門士や実践者研修等に出来るだけ参加している。研修後は資料の回覧を行なっている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	敦賀市の介護事業者連絡協議会に参加し、会議や研修に参加している。また、同法人のグループホームとは日々のくもん学習にて職員、利用者とも交流する機会が多くある。	○	地域の同業者とネットワーク作りや勉強会、相互訪問などの交流を通じて日々のサービスや職員育成につながるメリットも考えられるため他法人との交流の検討が期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	ホームの見学をしてもらうようにしており、サービス開始時には家族の協力を得ながら馴染んで頂けるように支援している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	一緒に楽しむことを常に考えながらケアしているが利用者の介護度、認知度が高くなっているのが現状であり、支え合う事がなかなか難しい状況となっている。	○	介護度、認知度が高くなり、できることが少なくなってきたが、その中でも、更なる工夫で、すこしでも喜怒哀楽が共有できることを実践する事が期待される。
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族の協力を得て利用者の生活歴や希望等をセンター方式を活用し、職員間で共有し、出来る事を話し合いながら意向にそった支援をしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	センター方式にてアセスメントをし、本人の思いを「したい」という言葉で表した利用者が自分らしく暮らせる介護計画が作成されている。ケアマネジャー、管理者、職員にてカンファレンスを行っているが全職員の意見が反映されていない。	○	今後予定されているが、利用者一人ひとりの介護計画に全職員の意見を反映する体制が期待される。
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回カンファレンスを行い、評価を実施し見直されている。状態に変化があった場合についてはその都度見直されている。		

敦賀ケアセンターかくだ グループホーム「はるか」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	状況や要望に合わせて、病院や美容院への付き添い、往診をして頂く体制づくり、個別の希望に合わせた外出の支援等を柔軟に行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に希望のかかりつけ医を聞いている。また、協力医には月に1度往診に来て頂いている。医師との連携は法人の看護師を通し行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	本人の思いをセンター方式に記録し、意向確認書にて家族の希望を詳しく確認している。家族に相談しながら、職員間で方針を共有しながら日々のケアを行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	接遇やプライバシーの確保についての研修を通して気付きを見出し、相手の立場になって考えるようしており、丁寧な言葉遣い、対応を徹底している。個人記録については、事務スペースの見えない所で保管している。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人らしい暮らしが出来るように家族から情報を得ながら、一人ひとりの思いを大切に職員間で話し合い、検討されているがその人らしさを求める事が状況的に難しくなっている。	○	介護度、認知度が高くなり、希望や要望の把握が難しくなっているが、家族、職員の情報などから、更に、その人らしい過ごし方を提案し、実践することが期待される。

敦賀ケアセンターかくだ グループホーム「はるか」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	夕食をホームで作っており、献立については利用者の希望を聞いている。一緒に買い物へ行き、調理や後片付け等、状況を見ながら出来ることを支援している。職員は一緒に同じものが食べられていない。	○	食事介助が必要な方もおられるので難しい面もあるが、グループホームの特性を活かし、職員の1人だけでも利用者と一緒に同じ物を食べる検討が今後期待される。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	介助の必要上、職員配置に工夫の必要性があるが、基本的に週3回の入浴を支援しており、拒否される方も多く声掛け等を工夫しながら出来るだけ希望に添った支援をしている		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	くもん学習法を取り入れられており、生活歴から俳句を詠んだり、生け花や洗濯物たたみ等を支援している。毎月季節の作品を作成し飾っている。また、気晴らしの支援としてなるべく外に出るようにしている。	○	日常的な役割について利用者の出来る事を再度職員間で話し合い、検討する事が期待される。
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	出来るだけ外に出掛けるようにしており、近くの公園に散歩に行ったり、買い物やドライブ、個別外出に出掛けている。また、季節毎の行事外出も支援している。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	ホーム前が交通量の多い道路に面しており、危険防止のため家族の了解を得てエレベーター、階段には鍵を掛けている。利用者が外に出る際は一緒に付き添っている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ミーティングで火災について話し合ったり、消化器具の位置確認等は行われているが、実際の避難訓練や地域への協力が充分ではありません。	○	消防署の協力の下、利用者一人ひとりの状態を踏まえて、昼夜を通しての実際の避難訓練や地域への協力の働きかけが期待される。

敦賀ケアセンターかくた グループホーム「はるか」

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	バランスのとれた食事が提供されており、昼食は地元の魚中心の献立で、季節の果物や手作りヨーグルトも提供されている。食事摂取量は毎食記録し、水分量については一日の合計も細かく記録し、一人ひとりの状況を把握している。利用者の状態に合わせて、きざみやトロミ食等対応している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は大変広く、大きな窓があり明るく、開放感もある。換気もこまめにしている。毎月利用者による手作り作品や生花を飾り季節感を出している。テーブルの配置を工夫しながら居心地良い空間づくりがなされている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に家族に働きかけを行っているがなかなか難しい状況ではあるが、利用者が昔使っていたお琴や三味線、お経の本等を持って来られたり、写真を飾ったり、一人ひとりに合った居室づくりが工夫されている。		